

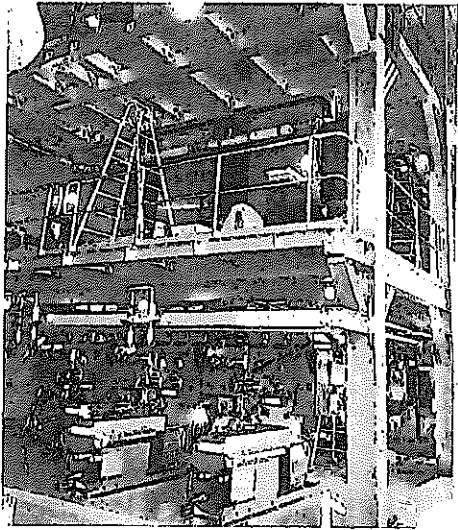
藤井燃系

今期から3カ年計画推進

最終年度で売上高20億円目標

カーペット向け糸加工の藤井燃系(三重県四日市市)は今期(2022年3月期)、策定した3カ年計画を元にデジタル化の推進や新技術への取り組み、人材育成などに力を入れる。最終年度までで売上高20億円を目標に掲げる。

3カ年計画を「Dii SH」プロジェクトと命名



新たに導入したPP熔融紡糸機

名。それぞれの頭文字からDX(デジタル技術)で企業を変革するデジタルトランスフォーメーション、インベーション、SDG&持続可能な開発目標、ヒューマンリソースといった取り組みを進める。業務のデジタル化をはじめ、新技術開発のための投資や加工業務の国内

回帰に加え、サステイナブル原料や省エネといった環境配慮、人材育成と処遇の改善に努める。藤井由幸会長兼CEOは「飛躍に向けて希望の種を育てていく」と語る。既に実行している取り組みもあり、新たに導入したポリプロピレンの熔融紡糸機もその一つ。業界全体を考え国内にモノ作りの体制を維持することが狙いだ。「当社だけでなく取引先や顧客、ひいては業界全体が良くなるビジネスを心掛ける」と語る。

前期の売上高は16億円(前期比18%減)だった。巣ごもりの需要で家庭向けは堅調に推移したものの、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でオフィスビル向けのカーペット需要が落ち込んだ。今後は新型コロナウイルス禍の変化に合わせた商品を供給する。

P.P紡糸機5月めどに本格稼働

藤井燃系は5月をめぐって、新たに導入したポリプロピレン(P.P)熔融紡糸機の本格稼働に入る。今期の生産量は3千トンを目標に掲げており、達成すれば国内でのP.P糸製造最大手になるとみられる。

現在は試験生産中で糸の品質確認を進めている。藤井由幸会長兼CEOは「確認が済めば量産できる体制は既に整っている」と話す。人員を強化し日本人2人と技能実習生4人の計6人を投入した。

新たな紡糸機はドイツ・ノイマーク社製の最新

機種で生産性に優れた品質を高めることができる。今回の導入によって熔融紡糸機は2台体制となり、既存の1台は主に開発とする。前期のP.P糸の生産量は2千ト弱だった。